

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300893		
法人名	社会福祉法人総社保育園		
事業所名	グループホーム総社 (総社ユニット)		
所在地	岡山県津山市総社309		
自己評価作成日	平成21年12月22日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370300893&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13番1号 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 木造建築で、中は落ち着いた木目調で温かみがあり、ホールの窓からは、四季の移り変わりが感じられる ・ いつも美味しい食事の提供を心がけ、楽しく食事をしている ・ 「歌いましょう!」とご利用者から声が出て、いつも明るい歌声が聞こえている ・ 出来ることは、何でもしていただき自信と達成感を得、ご利用者同士が助け合って生活している ・ 保育園児の訪問があり、曾孫のような園児との交流により生きる力を貰っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>明るさと笑顔。レクリエーションは大声を出して明るく元気で、利用者と職員と一緒にホームで生活している。一昨年2つの隣接するホームは一つのホームになった。2ユニット18人の利用者は全員女性で、全員と一緒に歌を歌い、ボール投げをする。仲の良い友達同士で塗り絵をしたり、作品作りをする。一人ひとりの生活も大切にしている。悲しい事があれば職員がそっと寄り添い安心した気持ちの中で又笑顔を取り戻す。常に職員が利用者一人ひとりの気持ちを大切に、陰ながら自然な支援をしている。利用者同士でも励まし合い、お互いにお世話をす。利用者と職員が一体となり元気に暮らせるホームである。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のミーティングで話し合い、ケアに対する考え方や実践の仕方を確認し合っているホームの理念を見える場所に貼り、職員全員で共有し、実践に努めている	管理者は職員同士が仲良くする事で利用者が良くなると自身の理念を持ち、職員と共有できる雰囲気づくりに努力している。職員は表情や動きに調和がとれていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは、日頃の挨拶を大切に、町内の清掃などに参加している、近隣の方が野菜や花を届けて下さったり、ボランティアとして訪問して下さっている ホームに地域の方が職員として働いている	町内会の清掃に参加したり、日頃から地区の情報を出るだけ多く入手して交流を深めていこうとしている。ボランティアも積極的に受け入れ、利用者や地域の方との接点としている。	ホームの存在を地域のメリットと認められる福祉の拠点にはどうか。認知症の介護の講座、認知症の理解を深める勉強会等、今、地域として関心度は高い分野でもある
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員会に地域の役員の方が出席して下さり、認知症の支援や実践など情報の発信をしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回推進委員会を開き、地域の方や市職員、ご家族に参加して頂き、現状報告をし、話し合っている (提案も出して頂いている)	現況報告のみならず、推進会議から発信できる活動の創作によって、地域へのさらなる理解やPRにつながるような取り組みを期待したい。	行政や地域の人にホームはどんな事を行っているかを行事等を活用して、推進会議の活性化を図っていく。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員会に高齢介護課の方が出席して下さっているのも、ホームの実情が判っている 又、日頃から判らないことは、市に相談し、市からも連絡して貰っている	このホームの制度上、市との連携、指導を仰ぐことが多く、相互の強力な良い関係が構築できている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来、「身体拘束をしない」、「玄関の鍵をかけない」とし、職員全体が「拘束しない」ケアに取り組んでいる	職員から命令的、無視の禁止等を掲げ、身近な人間尊重の精神の育成と実践を行っている。更に勉強会では、事例検討も行い、意識の共有を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、ホーム内でも勉強会をして、虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っているが、ホームでの対象者は、今のところ居られません		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項の内容を説明し、理解や了解を得ている 質問や疑問があれば、それに応じて対応している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者と会話したり、面会時、電話、手紙などで、ご家族の意見や要望を尋ね、反映するよう努めている	何気なく発声された利用者の言葉も真摯に受け止め、特に家族の方とは何でも話し合える関係づくりに努めている。出された意見や思いはミーティングで話し合い、対応に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや毎日の申し送りで、運営に対する意見交換を行い、反映している	毎日目を通す申し送りノートと介護日誌を利用し、意見を聞き、管理者会議で上司へつなげている。更に口頭で伝え合える関係を築き、職員同士も良い関係で意見が出やすくなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議を行い、意見交換をし、月1回程度ホームを訪れ、職員個々が向上心を持って働けるよう努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、内外の研修を受けるように配慮している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互訪問もあり、市役所やグループホーム協会主催の研修会にも参加、交流や質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接時など、ご本人の生活スタイルを把握し、要望や不安などに耳を傾けている 声掛けを多くして、信頼関係を気付き、安心して生活できるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の抱えている問題、困っていることに耳を傾け、関わりを持ちながら、サービス提供出来るように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をして、「今何が必要か?」「ご本人にとってどのように支援したらよいか?」を考えてサービス提供できるように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事(掃除、片付け、白菜の漬け物等)、主婦としての働きを学び、互いに助け合いつつ日々を過ごしている 声掛けなど、ゆっくり話を聞く時間を作っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのご利用者の様子、行事等を手紙でお知らせし、ご家族との絆を大切にしている 面会も自由に来て頂き、ゆっくりと話して頂けるよう配慮している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友達や、近所の方、馴染みの方の来訪を歓迎している ふるさと訪問など、したいと考えている	来訪者には部屋でゆっくり利用者とお過ごせるように湯茶の接待をしている。また、利用者の作品ファイルを見てもらって話題が豊かになり、双方の良い関係の継続につながっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や、レクリエーションなどみんなで出来ることを選んで、それぞれ笑顔が出るよう配慮している その中でごく自然に利用者同士が支え合い関わり合うようになってきている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を尋ねたり、退居先を訪問している 中には、ご家族の方が、懐かしんでホームを訪れ、様子を知らせて下さっている方もある		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の今までの生活を大切にして、ホームで生活する上での、個々の思いを聞き入れ、添えるように心がけている 又出来るだけ、自己決定できるよう声掛けなど配慮している	本人や家族とよく話し合い、本人の気持ちや希望も把握している。また、その人に応じたコミュニケーションの仕方も変えて気持ちを汲み取るようにしている。ホームでは、入所してから素晴らしい塗り絵や短歌の才能を発揮される人もいて、その人の得意も大切にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時生活歴や、馴染みの暮らし方等を尋ね、把握するよう努めている ご家族の面会時に聞いたこと、ご本人との会話で知りうることなど職員全体で共有している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に生活する中で、気付きや、出来ること、出来ないこと、好み等を見極め現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんなことを支援をすれば、ご本人がよりよく生活できるか? 職員で話し合い、介護計画を作成している 又、面会や手紙などで、ご家族の希望を聞き、生かしている	半年毎に介護計画の見直しを行い、特変時のモニタリングで利用者の生活実態を見極めながら支援している。家族の希望・意見等もそのままの言葉で記述している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、様子などを記録し、必要があれば話し合いをして対処している 記録だけで時間がとられないよう、時系列の記録を中止して、ご本人に寄り添う時間をとるようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況の変化があれば、その都度ご家族の希望や要望に応じて対応するよう心がけている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れたり(歌おう会)、園児の訪問があったり、生活面で楽しみにしている(お餅つき、クリスマス、運動会、その他の行事に招待され、参加している)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診があり、見ていただけるのでご本人、家族とも安心しておられる。又、希望により、入所前からの掛かり付け医との関係を継続している方も居られる	通院は基本的には家族が対応している。必要ある時は歯科医の往診や、眼科医との連携もある。主治医の往診が月2回行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「訪問看護ステーションひまわり」と契約しており、週1回看護師の訪問があり、個々の健康診断や、相談にのって貰い健康維持に勤めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ホームでの様子を介護添書で、退院時は病院から看護添書により、相互に連絡を取っている。又入院中は、お見舞いで様子を見聞きし、退院時には状況把握が出来るようにしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所時に相談説明をして、了解を頂いているが、ご家族の意見や、希望をお聞きし、ホームで「何が出来るか?出来ないか?」を考えて、ご家族と相談しながら、ご利用者にとって良い方法を探っていきたい	関連母体の特養などの提携がある為、今後に於いても検討の余地はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用い、ホーム内で勉強会をして、対応を検討している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、避難訓練を実施している 近隣施設(椿寿荘、保育園、国府の里等)とは、協力関係が出来ている(すぐ隣の方も駆けつけて下さる) 又、避難方法を職員で確認し合っている	年2回避難訓練を行っている。リビングの掃き出しからウッドテラスを避難経路と定める等対策は講じている。地域の方の人的協力の要請や避難場所の設定等、近々に検討していこうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者一人一人の人格を尊重し、プライバシーを守り、プライドを損ねないように言葉掛けや対応に配慮している(本人の思っている現実を否定しない等)	利用者の生きてこられた人生を尊重している。常に声掛けして了解を得てから動作する等、職員が共有して実践している。重要書類は管理者が一括管理するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が希望を表したり、自己決定が出来るよう選択できる声掛けを心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、それぞれが自分のペースを保ちながら生活できるように配慮している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を一緒に選び、同じ洋服に偏らないよう手助けしている 出来る方は、自分で選んで、おしゃれを楽しんで居られる		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとって、食事はとても楽しみで毎回美味しい食事を作るよう心がけている 又一緒に食卓を囲み、楽しく食事が出来るよう支援している 出来る方は、率先して配膳や片付けを手伝って下さる	このホームの定評は食事が良いことであると全員が自負している。気の合う人の席の確保や、食器の充実、食事時のやさしい声掛け等で楽しい雰囲気作りをしている。行事食で変化も楽しめている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量を把握し食事量、水分量等を記録し、健康管理に役立てている 調理もその人にあつた方法で、刻みにしたり、ミキサー食を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間寝る前に歯磨き、ポリデントが習慣になっている人もおり、声掛けや見守りでポリデントをしている 昼食後声掛けで磨いて頂き、出来ない方は手助けしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、声掛け、誘導など介助し、後始末など出来ないところを介助している 又、紙パンツ、パット使用から、布のパンツに変更した方もおられる	排泄記録を基に、各自の排泄パターンを把握した対応をしている。紙パンツから布パンツに移行出来た人もいる。殆んど自立している現状の維持の為、見守り、声掛けを十分行っていく。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給（お茶が沢山飲めない人には、他の飲み物を用意）や野菜など、繊維質の多い物など、提供している 乳製品の摂取も心がけている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をとっても楽しみにされており、バイタルチェックにより、可能な限り毎日入浴して頂いている（時に入浴を拒否される方も居られるが、無理強いせず、人を変えて声掛けしている）	毎日入浴実施している。入浴拒否者には家族の意見も参考にしながら、当人のこだわり面の解明に努力している。他の成功例などの事例を見ていくことも参考として欲しい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、今までの習慣から、寝る時間が一人一人だいたい決まっており、希望により安眠灯等、明かりを調節したり、季節に応じた室温を心がけている 昼間も自由に休息させている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、申し送り簿に記入して、共有を図り、服薬ファイルを閉じており、職員全体が内容を把握出来るようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、ご家族の話などから、出来ること、本人が楽しみにしていること、好きなことをして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている（又、行事など組んで、楽しんで頂いている）		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出するのは、困難で有るが、玄関の外で日光浴をしたり、歌を唄ったりして、戸外の空気に触れるようにしている 又行事等で、紅葉見学や、外食などもしている	環境と人員的に見て日常的外出は困難な為、代替えとして、手足体操やボールを使ってレクリエーションを恒常的に行っている。行事で合同で外出する機会を出来るだけ多く持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、かえって混乱を招く方もおられ、ほとんどの方は所持して居られない出来る方は所持しており、自分のお金から支出し、ご家族に買って来て貰っておられる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどのご利用者は電話の声は聞き取りにくく、かかってきても、うまく言葉が通じていない 年賀状を書く等支援している(家族より返事があり、懐に入れて、喜びを表した音も届かせる)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、写真を飾ったり、ご利用者の作った物を飾り、会話を引き出し、居心地良く過ごせるように配慮している	机の上の花や壁の共同作品は、話題のきっかけにもなり暖かい雰囲気づくりにもなっている。リビングルームの温度調整は利用者の感度を度々確認しながら細かく行われ、快適になっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外のベンチ、廊下のソファー、畳の部屋の炬燵等、居心地の良い空間を作るよう工夫している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人によって、使用していた馴染みの家具を持ち込み、自分の居場所となっている又、写真を飾ったり、自分の制作物を飾ったりしている方もおられる	どの部屋もベッド上は整頓され清潔感があつた。「ここは さんのお部屋です」と表示して混乱を回避している所もあり、利用者が安心して暮らせている様子を見せて頂いた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや、手すりの設置により、安全に歩行できるように配慮している、又トイレなど、昼夜、小さな明かりを付けて、場所が判るようにして、見守りをしている		